

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年7月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0872000500		
法人名	医療法人 健佑会		
事業所名	グループホーム ファミリーユ		
所在地	茨城県つくば市大曾根3681 (電話)029-864-7555		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年6月27日	評価確定日	平成20年10月27日

## 【情報提供票より】(平成20年6月2日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤 20 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	22.8 人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	4 階建ての	2 階 ~	4 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

## (4)利用者の概要(6月2日現在)

利用者人数	27 名	男性 2 名	女性 25 名
要介護1		名	要介護2 8 名
要介護3	12 名		要介護4 7 名
要介護5		名	要支援2 名
年齢	平均 86.3 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	いちほら病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは病院の敷地内にあり、緑に囲まれた4階建ての施設である。ホームの中は、家庭的な雰囲気、ゆったりとした時間と動きが流れている感じがした。窓からは、筑波山が見渡せ、つくばの町並みがみえ、自然環境が豊かである。職員は、指示をするのではなく、利用者の生活環境を把握して、残存機能を生かした支援を心がけているところである。利用者や職員は、生き生きと生活されている印象がある。ユニットそれぞれが、雰囲気のちがいがあがるが、家族的な雰囲気で心地よい風が吹かれている感じがした。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域のつきあいの工夫と、運営推進会議についての改善点をあげられた。その結果、職員と管理者間で話し合いが持たれ、運営推進会議は2ヶ月に1回、地域の方を含め、開催することが出来ている。地域とのつきあいでは、ホームからの働きかけだけではなく、地域からきていただけるよう、働きかけている。出来るところから、改善取り組みに努力されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一同が、外部評価の意義を理解されている。自己評価を基に、介護の見直しや改善点等話し合うことが出来た。また、意見を、管理者が取り入れてくれるし、話し合いに応じてくれていると話されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催され、家族会をも含めた会議になっている。職員にも会議内容は報告され、ケアの向上につなげていけるよう話し合う機会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見や苦情に対して積極的に受け入れ、改善に向けて、職員と共に話し合っている。改善策は、家族に報告され、ケアの向上につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	施設の立地条件から、地域との連携に困難があると思われる。その環境から、地域に関わっていくとする努力がみられる。利用者が外に出て行くことは、難しい反面、地域から、ホームに来ていただく方向性で、連携をはかって行きたいと考えて、工夫されている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念のほかに基本方針、ケア原則を掲示し、穏やかに残存機能をのばしていけるよう、独自の理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ゆったり、穏やかな雰囲気、生活しやすい環境を心がけるようにしている。職員は、意見の言いやすい環境にあり、理念に反映できるよう、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年3回の空き缶広いに参加している。市報で行事参加が可能であると判断した時には、声をかけて参加できるよう、地域へ働きかけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が評価の意義を理解されて、自己評価に取り組んだ。前回の評価結果を基に、改善の話し合いを持って努力なさっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営会議を開催している。家族会は年3回、開催している。家族会の1回は、運営会議と合同で開催する事とし、意見交換の場としている。多くの方が参加してくださっている。会議等の意見は職員に伝達され、サービスの向上につなげている。		

茨城県 グループホームファミーユ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	つくば市地域密着型サービス連絡会の会議に参加し、市との連携に関わるようにしている。また、大学生や看護学生の実習の受け入れが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	金銭管理については1ヵ月ごとに報告している。健康状態については、症状にあわせて報告している。「いきいき広報」を定期的に発行している。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族会や面会時のときに意見等聞くように心がけている。目安箱を1階に設置してあるが、現在までに1件の意見だけしか入ってない。意見をいただいたときには、職員に伝達し、改善に向けて話し合っている。口頭での意見が多く、職員と家族の意見の言いやすい雰囲気が出ている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	今年に入って2名の異動があったが利用者には影響はなかった。移動について利用者から聞かれた時には、わかりやすく説明するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人としての院内研修に参加している。外部研修は、職員の希望を優先して参加している。研修参加後は、職員に研修報告をして、共有するようにしている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	連絡会を通じて、他のグループホームに見学しにしている。職員も見学したい時には、業務に支障がないように見学できるよう配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所は1週間出来るようになっている。家族や利用者になる方の希望に添えるよう心がけている。デイサービスに来所されている方が、入所したケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	穏やかに安心して過ごせる環境を提供し、利用者も職員も家族的かかわりから、喜怒哀楽を共にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に添えるよう心がけている。その時にできない時には、利用者や家族、職員の話し合いを持ち、希望をかなえられるよう考え、配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員が意見を出し合い、利用者がよりよく暮らせる様、計画を立案している。計画は、家族にも同意をいただいている。月に1回のミーティングを開催し計画追加など行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間内に、職員で話し合っ、計画の評価を行っている。		きちんと評価されているが、話し合ったメンバーや評価時のサインがされていない。責任の所在を明らかにしていくことを提案したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人としての多機能性を生かしたケアの提供が出来ている。家族、利用者の要望について細かな対応に配慮されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内に、病院があるため、歩いていける利用者は、受診の支援を行っている。受診できない利用者は、往診していただけるようしている。夜間の急変時の対応は、医師の指示が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急時対応について同意書を入所時にいただいている。家族の意向があれば、話し合いを持ち、意向に沿えるよう心がけて行きたいと思っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりの利用者にあわせた、丁寧な言葉かけをしている。指示するような言葉かけはしたくないとの職員の気持ちが大きいと感じる。個人情報、記録物は、情報の漏洩に配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや希望を重視し、残存機能を延ばしていけるケアを支援している。利用者の特技などを配慮したケアを提供できるよう日々支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来るところを手伝っていただくよう、配慮している。職員と利用者が、会話し、楽しみながらの光景は、自然体を感じられた。利用者同士の気遣いがなんとも暖かい気分にくれた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則的に午後であるが、毎日に入浴可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、掃除を手伝ってもらっている。広い庭を散歩したり、季節感を楽しんだりしている。家庭菜園なども行っており、収穫を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年齢が高齢化してきて、開設当初よりは外出することが困難になってきている。しかし、出来る限り、外食したり、楽しみごとの支援が出来るよう心がけている。イベントは各ユニットごとにアイデアを出し合って支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の構造上から玄関に施錠しているが、居室には施錠していない。安全性を考えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人での全体避難訓練は、1年に1回、消防署を交えて行っている。緊急連絡網は職員がわかるように周知している。	○	グループホーム独自の避難訓練を行うことで、救助者がくるまでの避難を想定した訓練が必要ではないかと考える。そして、どのようにすれば、安全に避難できるか、職員が周知する必要があると考える。今後検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、管理栄養士によって管理されている。一人ひとりの量や水分について、工夫された支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、利用者の思い思いの場所で過ごされている。食堂や居間は、外からの光が入り、とても明るい。窓から見える景色は、町を一望できるようになっている。壁には、季節ごとの写真が飾られて、利用者の目を楽しませているようである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物品や使い慣れ物がおかれ、一人の時間を過ごせるよう提供されている。家族や利用者の希望の物があれば持込は可能である。		